

授業科目	臨床看護コミュニケーション	4 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護	選択

科目担当責任者	澤田いづみ (保健医療学研究棟 E207 号) e-mail : izumi@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	小川賢一		
概要	看護者は臨床場面において、様々な対象者と出会い、多様な人生、感情に遭遇する。質の良い看護を提供しようとし、看護の目的を達成しようとするならば、患者とのコミュニケーションを充分にとる必要がある。そして、多職種との協働においては、看護者には患者の立場に立った建設的な発言を求められる。しかし、このことは同時多発的に生じるさまざまな状況に臨機応変に対応しなければならない臨床看護の現場では、なかなか容易なことではない。患者の真意をつかまえたり、対象者の思いを汲み、看護者の意図を伝えたりするためには、意図的な学習が必要である。この科目では、基礎的な対人コミュニケーション理論を土台に、臨床看護の現場で起こり得るさまざまな患者—看護者間のコミュニケーション場面を取り上げ、看護者がより効果的なコミュニケーションを展開するために必要な基本的技術を学ぶこととする。		
到達目標	講義と演習を通じて以下のコミュニケーション能力を身に着けることを目的とする。 1. 援助関係構築のために求められるコミュニケーション技術を理解し実施できる。 2. 臨床場面で看護に求められる基本的な看護面談を実施できる。 3. チーム医療において看護に求められるサーティブなコミュニケーション技術を理解し実施できる。 4. 対象者の健康行動への動機づけを促進するコミュニケーション技術の基本を実施できる。 5. 自己の特性を生かした看護コミュニケーションを実施できる。		
関連科目	人間関係論、ヘルスアセスメント2、精神看護概論、精神看護方法		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	演習参加態度	30%	演習参加態度：問題意識をもって参加しているか、体験をしようとしているか 相互学習への寄与、討論態度(討論へ問題意識、発言、聞き方、質問による深まり、意見の統合) ミニレポート課題：得られた学びについて具体的に学習目標に照らして記述しているか 最終レポート：レポート課題への適切性、文章校正、文献
	ミニレポート	30%	
	最終レポート	40%	
教科書	指定なし		
参考書	①渡部富栄 [2011] 「対人コミュニケーション入門—看護のパワーアップにつながる理論と技術」 ライフサポート社 ②篠崎恵美子、藤井徹也 [2019] 「看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング」 医学書院 ③五十嵐透子 [2003] 「自分を見つめるカウンセリング・マインド へするケア・ワークの基本と展開」 医歯薬出版株式会社 ④北田雅子、磯村毅 [2016] 「医療スタッフのための動機づけ面接法 逆引き MI 学習帳」 医歯薬出版株式会社		
履修上の留意点	演習を中心に行うので、積極的な参加姿勢が望まれます。 自己の内省や自己開示を伴う演習があるので、履修学生同士、支え合う態度で参加してください。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 良好なコミュニケーションに必要な技法① 看護コミュニケーションと看護面接の定義	事前：関連科目の資料を読み替えず 事後：履修の目的を明確にする	講義	澤田・小川
2	良好なコミュニケーションに必要な技法② 質問技法と投げ返し	事前：基本スキルについて調べる 事後：演習体験のまとめをする	講義・演習	〃
3	良好なコミュニケーションに必要な技法③ 感情の表出を促し受け止める ネガティブな感情へ関わる	事前：積極的傾聴スキルを予習する 事後：演習体験のまとめをする	〃	〃

4	良好なコミュニケーションに必要な技法④ 看護面談の持ち方	事前：積極的傾聴スキルを予習する 事後：演習体験のまとめをする	〃	〃
5	チーム医療における示すコミュニケーション① アサーティブコミュニケーション	事前：アサーティブコミュニケーション について調べる 事後：演習体験のまとめをする	〃	〃
6	アサーティブコミュニケーション② コンフリクト・アプローチ	事前：実習等のコミュニケーションで 葛藤した場面を書き留めておく 事後：演習体験のまとめをする	〃	〃
7	看護場面で活用する動機づけ面接の基礎	事前：動機づけ面接について調べる 事後：演習体験のまとめをする	〃	〃
8	まとめ 総合演習	事前：ロールプレイしてみたい場面を 考えておく 事後：学びのまとめ	〃	〃